



ふるさとの風

～長月～

太古から変わらない月、
人は、文字さえ持たない頃からその姿を見つめ語ってきた ——。

～観月の宴～

Autumn of Futamiura



9月は夏と秋の狭間 —。
夏のざわめきが去ると、秋の静寂が訪れる…。

二見浦は伊勢参宮の楔の浜。
倭姫命が、天照大御神の御鎮座を求めてこの地を訪れた時、その美しい景色が名残惜しいと、二度振り返り見られたため、その名がついたと言われる。

是の神風の伊勢国は常世の浪の重帰する国なり。
傍国の可憐し国なり。是の国に居らむと欲ふ。

—— 日本書紀

白砂青松の浜辺は「清き渚」と称され、万葉の昔から美しさを讃えられ、和歌にも多く詠まれてきた。

その聖なる海辺に浮かぶ夫婦岩は、沖合に鎮座する興玉神社の鳥居の役目を果たす。
男岩と女岩を結ぶ「結界の縄」。この大注連縄の向こうが、常世の神の寄りつく聖なる場所。
手前が俗世とされ、張替の神事は、5・9・12月の年3回行われている。
夫婦岩からの日の出は日本の原風景。
その荘厳さは古くから多くの人々を魅了してきた。
同様に二見浦の月も美しい…。
夫婦岩の彼方に輝く月は、見る人を幽玄境に誘う。
湖面のように穏やかな海を照らす月の光は、まるで夜空に浮かぶ灯台のよう…。

嘯風弄月（しょうふうろうげつ） —
秋の風を感じながら、常世から打ち寄せる波音に耳を澄ます。
神秘的な月の光に照らされ、
千年変わらぬ光明に酔いしれる。

昔と今をつなぐ月を、この秋も眺める。
今年の中秋の名月は9月12日、
6年ぶりの満月…。

～月やどる 浪のかひには よるぞなき
あけて二見を見るここちして～

西行



➤ 神都名勝誌 巻四～巻六 （神宮司廳／編 皇學館大学 L243／シ／2）

➤ 伊勢参宮名所図会 （藪閑月／画 編 原田幹／校訂 国書刊行会 L290／シ）

図書館だより
2011年9月号より